

早いもので夏休みを控えた7月に入りました。今号は、7月10日開催の「はぐくみ文化創造シンポジウム」及び「京都はぐくみネットワーク」発足式を記念して、身近な「はぐくみ活動」の取組を紹介します。

地域で子どもを育む「はぐくみ文化」の創造。高校生も参画！

京都市立塔南高校（南区）には、普通科とともに、将来、教師を目指している生徒が在籍する「教育みらい科」があります。これまでから、同校の課外学習（フィールドワーク）の一環として、多くの生徒が近隣の「放課後まなび教室」に参加してくれています。

小学生から見れば、高校生は、「お兄さん」「お姉さん」のような身近な目標として頼りになる存在であり、高校生としても、そうした経験やふれあいは、決して教科書では学ぶことのできない貴重な体験の場となっています。



吉祥院小学校（南区）

同校では、毎日（週5回）放課後まなび教室が開設されており、登録者数160人、全校児童に対する登録率も30%を超え、大変多くの児童が参加する教室です。

塔南高校に近いということもあり、毎年教育みらい科の生徒を中心にたくさん参加してくれています。この日は3名の男子生徒が、学習をする小学生の支援をしてくれました。

地域の方は、「まなびに通っていた児童も進学し、やがて大人になる。そして、地域の一員として、地域の子どもを支える。そういう地域づくりに少しでも貢献できれば…」と力強く語られ、高校生が小学生を支援する姿を優しく見守られていました。



小学生に寄り添い学習支援する高校生(右)

伏見南浜小学校（伏見区）

同校では、週3日放課後まなび教室が開設され、92人が登録しています。

今年度から、塔南高校教育みらい科の女子生徒がフィールドワークで参加してくれるようになりました。

高校では、吹奏楽の部活動もし、日々忙しい中ですが、少しでも教室に来る小学生の心に寄り添おうと頑張ってくれています。

地域全体で子どもを育む京都の伝統。この場所で共に過ごした時間は、子どもにとっても、高校生にとっても、かけがえのない経験となるでしょう。



地域の方とともに活動する高校生(左端)

ホームページを続々更新中

本ニュースのバックナンバーをはじめ「実践事例集」などの情報がご覧いただけます。本事業の紹介パンフレットもリニューアルしました。

京都市ホームページ「京都市情報館」から「放課後まなび教室」で検索ください。



文書交換(メール番号不要)のあて先は、下記のとおり局名、課名を明記してください。「放課後まなび教室担当」だけでは届きません。

発行 京都市子ども若者はぐくみ局
子ども若者未来部育成推進課
放課後まなび教室担当

〒604-8171

中京区烏丸通御池下る虎屋町 566-1

☎ 075-746-7610 FAX 075-254-5020

